TOPIC 3

平和を紡ぐ

～広島平和記念式典小中学生派遣事業～

照りつける太陽の下、大粒の汗を拭いながら、被爆桜を見上げる少年少女たち。

8月5日、今年で7年目となる『広島平和記念式典小中学生派遣事業』で、市内小中学校を代表し33人が広島の地を訪れました。

原爆投下国の現職大統領である米国のオバマ大統領が訪れてから初めて迎えた8月6日。被爆者や政府関係者、海外代表らが多数参列する広島平和記念式典に彼らも参列し、平和に祈りをささげました。

「戦争」、「原爆」、そして「平和」。被爆地広島で見て、聞いて、感じた彼らの言葉を紹介します。

平和とは何か

平和とは何かあまり考えたことはありませんでしたが、私がどれだけ平和な日々を過ごしているのか実感しました。

青島みなみさん（岩田小）

昔は今のように平和ではなかったということがわかり、今を大切に生きようと思うようになりました。

横山弘一郎さん（青城小）

安田女子高校の方が、戦争という暗いイメージだけじゃなく、平和という明るいイメージも伝えていくべきだと言っていた。戦争の恐ろしさだけじゃない、「命の大切さ」を私も伝えたいと思った。

寺田有嬉子（ゆきこ）さん（福田中）

平和のためにできること

みんなが平和について考え、みんなで平和への取り組みを行っていくこと。

齋藤あきさん（長野小）

71年前のこの出来事を語り継いでいくこと。少しでも多くの人に「核」の恐ろしさを知ってもらうこと。

大澤真輝（まさき）さん（竜洋西小）

世界中の人が平和とは何か考えること。平和は一人一人の意識で変えられる。

稲葉啓太さん（豊岡北小）

今、この世界や未来に起こりうる問題に目を向けて、平和を維持するためにどうしたらよいか。これからの次代を担う若者として考えていきたい。

上川拳司（けんじ）さん（神明中）

①安田女子高校で被爆桜に触れる②③平和記念資料館で展示を見つめる④平和記念公園の慰霊碑に黙祷する⑤平和記念公園に千羽鶴を奉納する⑥⑦広島平和記念式典に参列

Message // ラジオで伝える

平和記念資料館では、原爆が落とされた時間、8時15分で止まったままの時計や原爆が落ちたとき広島の女学生が着ていた焼け焦げてぼろぼろになった服を実際に見て、原爆の恐ろしさがわかりました。

今まで当たり前に思っていた生活が、広島訪問を通してとても幸せだと思えるようになりました。この気持ちの変化を学校のみんなに伝えたいと思います。

神谷真菜美さん（磐田南小）

広島へ行き、自分の目で確かめ、平和の大切さや日本で戦争があったという事実を学び、自分なりに感じ取ることが出来ました。

広島平和記念式典では、世界に核兵器廃絶を訴え、心から熱くなる物を感じました。被ばく者の平均年齢が80歳を超えた今、未来に向けて若い僕たちが次の世代へ命の尊さや平和への願いを語り伝えなければならないと強く思いました。

中安正希さん（向陽中）

▲8月12日放送の磐田情報局
（写真左から神谷さん、中安さん）

この気持ちの変化を学校のみんなに伝えたい

Message // 平和祈念式で伝える

後世に伝えるという義務を必ず果たそうと強く感じました

▲8月15日に行われた磐田市平和祈念式

人の心の対立によって生まれた戦争は、世界中を巻き込み、人々を苦しめました。そして、たくさんの被害者を出し世の中を変えていきました。8月6日もその一日です。

広島に原爆が投下されたのは71年前。これまで学んできた日本の歴史を振り返ると、そんなに昔の事でもないと気付かされました。

もしも自分の大切な家族や友人が原爆で亡くなってしまったらと考えただけで怖くなりました。私たちが今、何気なく過ごしている平和な日々は、何物にも代え難い物なのだなと改めて感じました。

私は戦争体験者ではないから、多くの事は語れません。しかし、私たちがこの出来事を受け継いでいかなければ、この歴史は失われてしまいます。後世に伝えるという義務を必ず果たそうと強く感じました。

原ひまりさん（城山中）

平和を紡ぐ

帰りの新幹線で、彼らに広島に行って感じたことを誰に伝えたいかを尋ねました。家族、友達、学校のみんな、まだ広島に行ったことがない人、広島を知らない海外の人、これから出会う人、そう答える少年少女たちの目には確かな意志が宿っていました。

歴史の証人である戦争体験者の話を聞くには限りがあります。体験者の語った出来事を、現代に生きる私たちが「伝える」ことで平和への思いは受け継がれていきます。

一人一人の声は小さく弱いかもしれません。しかし、その声に耳を傾け、その言葉を、その意思を新たな人へ伝えていけば、その思いは広がっていきます。一人が紡いだ平和への糸は、多くの人の糸と結ばれ、絡まり合うことで、より強い思いとなって、次代に続く若者たちへ繋がっていくことでしょう。

※被爆桜・・・広島市の安田女子高等学校で生き続ける、原爆の被爆樹木に認定された貴重な桜。被爆地では75年間は草木も生えないと言われた中、翌年の春に花を満開に咲かせた。同校生徒会が接ぎ木で増やし、桜の命を後世に伝えている。